

# 新課程入試（2006年度）の出題傾向

学校法人河合塾専任講師 佐藤 裕 治

## 1. はじめに

今年は、新教育課程を受けた受験生にとって、初めての入試が実施された。これまでに比べ、センター試験や国公立大二次・私立大の入試問題のどこが変わったのかを実際の問題を例に分析してみた。

## 2. センター試験の出題傾向

表1に示すように、2006年度も解答や素材形式に大きな変化はなかった。図表の読み取りや正誤文の判定問題が多く、単純な地名や語句を選択させるものは少なく、知識量ではなく、地理的思

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
正誤文判定*1	16(17)	18	18(19)	15(18)	14	8(10)	9	16	19	14
組み合わせ解答*1	0	2	1	6	6(7)	14(15)	13	12	10	13
図	10	12	15	20	16	19	21	18	18	18
表	3	7	4	7	5	7	5	6	3	3
写真*2	0	4(4)	3(9)	1(4)	1(1)	2(7)	3(3)	1(3)	0	1
マーク数	36	36	36	36	35	35	35	35	35	35
平均点	67.2	77.2	62.3	58.2	63.6	66.3	55.0	62.1	70.2	65.1

\*1 括弧内はマーク数を示す。\*2 括弧内は写真の枚数を示す。

表1 過去10年間のセンター試験（地理B）の解答形式と素材形式

考力や地理的技能を試す問題が中心となっている。

### ■地理A・地理Bの共通問題の大幅減少

旧課程では、大問5問中2問が共通問題で、配点でも100点中40点が共通問題分であったが、2006年度では、共通問題の配点は10点に過ぎなかった。旧課程では共通問題に、地域調査に関する問題が置かれることが多く、そこで扱われる自然環境や産業に関する問題は、地理Aの受験生にとっては学習範囲を超えやや難しいと思われるものもあった。2006年度は共通問題を基礎的事項に限定し、他は「世界の結びつき」「生活と文化」「地球的課題」という地理Aの主要テーマで問題が構成された。これは、地理Aと地理Bを違う科目として位置づけ、地理Aの独自性を強く示そうとしたこと

によるものと思われる。

### ■共通問題に「地理の基礎的事項」

「地理の基礎的事項に関する問題」として、出題された地理A・Bの共通問題は次の5問で、

- 問1 経線の長さ
- 問2 景観写真の説明文の正誤判定
- 問3 対蹠点にあたる地域
- 問4 地図中で最も標高が高い地域
- 問5 気候的特徴の異なる地域

地球上の位置や自然環境に関する問題が中心であった。解答形式も地点や数値などを選択させる単純なもので、組み合わせ解答はなかった。今回大学入試センターから公表されなかった追試験でも

第1問に地理A・B共通問題として、同様の形式の問題があり、このスタイルは次年度以降も続くと予想される。

### ■地理Bでは自然環境のウェイトが高まる

自然環境を扱った問題は、前回のカリキュラムの変更時には大幅に減少し、その後は「自然環境と人間生

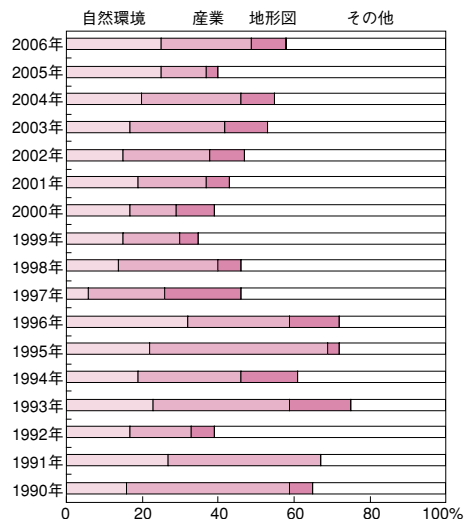


図1 センター試験の出題分野別配点の変化

活」というテーマでしだいに問題が増える傾向にあった。新課程では系統地理的分野として地形や気候の扱いが以前より大きくなっていることもあり、2006年度は「自然環境」が大問として出題された。内容は、プレート境界の特徴、大陸断面図、雨温図など基本的なもので、難易度も標準的であった。図1に示すように、配点比率で見ると、1990～96年度の旧々課程当時に近く、今後も地形や気候などの成因を含めた基本的内容は一定量出題されると思われる。

■資源・産業に関する出題は増えていない

地理Bでは、旧課程に比べ系統地理的分野の扱いが大きくなり、自然環境の出題がやや増加傾向を示しているのに対して、資源や産業にする出題は旧々課程当時のようになくなったわけではない。「何処で」、「何が」、「どのようにして」生産されているかといった知識ではなく、産業の国際化と貿易や流通との関係など、新しい動きをきちんと理解できているかが出題される傾向にある。

■地理的技能（スキル）に関する問題が増加

新課程で重視されている主題図や地形図、景観写真の読み取りなど、いわゆる地理的技能（スキル）に関する問題は、センター試験ではこれまでも頻出形式で、2006年度も図や写真などから読みとれることを述べた文章の正誤を判定させる形式

問 2 下線部①に関して、次の図1は、東京を中心とした地域における、1981年と2001年の30℃を超える気温が記録された総時間数の分布を示したものである。図1を説明した文として適当でないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 31

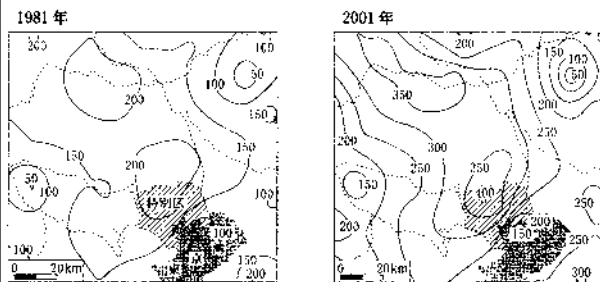
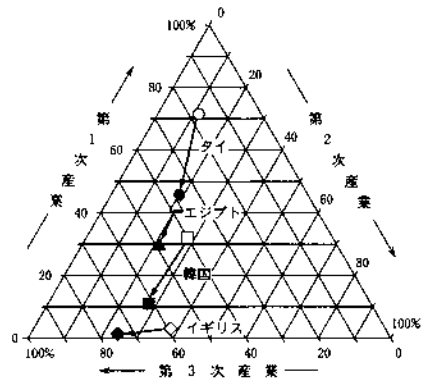


図 1

【例題 1】 2006年センター試験地理B（本試）第6問

問 5 下線部②に関して、次の図2は、イギリス、エジプト、韓国、タイの最近約20年間における産業別人口構成の変化を示したものである。図2の内容およびそれにかかわる諸課題について述べた文として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

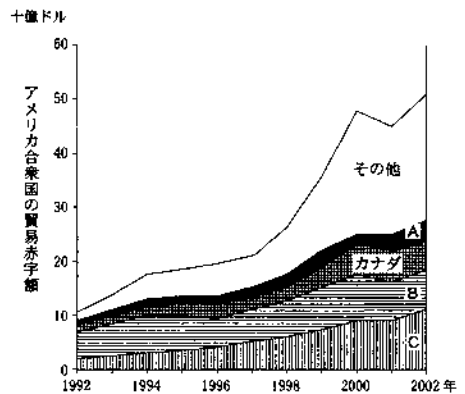


統計年次は、イギリスが1980年と2002年、エジプトが1980年と2000年、韓国が1982年と2000年、タイが1980年と2001年。『世界開発図会』により作成。

図 2

【例題 2】 2006年センター試験地理B（本試）第6問

問 6 下線部①に関して、アメリカ合衆国は多額の貿易赤字をかかえている。次の図3は、アメリカ合衆国の貿易赤字額の推移を、主要な相手国別に示したものである。A～Cは、中国\*、ドイツ、日本のいずれかである。A～Cと国名との正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 35  
\*台湾、ホンコン、マカオは含まない。



『国別進出貿易統計年鑑』により作成。

図 3

【例題 3】 2006年センター試験地理B（本試）第6問

の問題が多くみられた。地理Bでは、景観写真、地形図、図形表現図、等値線図、三角グラフなどから読みとれることがらに関する正誤文の判定問題が出題された。

【例題 1】 は気温30℃を超える時間数の等値線図（この図は帝国書院『楽しく学ぶ世界地理B』p.201

の図とほぼ同じ)、**例題 2** は産業別人口構成の三角グラフの読みとりに関する問題で、いずれも図から変化を読みとらせるとともに、その背景を説明した文章の正誤を判定するもので、図の判読の技能と地理的知識の両方が必要な問題であり、今後このような形式が多くなるのではないかと思われる。

**例題 3** は河合塾による受験生の再現答案で正答率が低かった問題で、とくに中・下位レベルの受験生で⑥< A 日本・ B ドイツ・ C 中国 > を選択したものが多くみられた。受験生にその理由を問うと、アメリカ合衆国の対日本貿易赤字が大きいからといった答があった。これはこの「積み上げ面グラフ」が正しく読めずに、各国の数値の変化を示した折れ線グラフと理解したと思われ、こうした受験生が少なからずみられたようである。教科書でもさまざまなグラフや統計地図が多用されているが、まずはその読み方そのものを確認させる必要があろう。

### 3. 国公立二次・私大の出題形式の変化

#### ■記号型が減少し、記号・記述混合型が増加

**表 2** (p.15) は、全国の大学の二次・私大の地理の入試問題を大問単位で、解答形式、系統的項目、出題地域、素材形式などで分類し、その変化をみたものである。解答形式についてみると、選択肢から記号・番号などを選ぶ記号型(マーク式を含む)だけの問題は減少傾向にあり、選択肢が与えられず、自分で考えて用語や地名などを記入する記述型や論述型を含む問題が増加傾向にある。とくに論述型は、論述型だけの大問は増えていないが、記号型や記述型と組み合わせた問題は増加している。私立大では、従来はマークシートを用いた記号型の問題が多かったが、センター試験を導入する大学が増加する一方、個別入試では記号型、記述型、論述型を併用し、丁寧に受験生の能力を測ろうとする傾向がみられる。

#### ■論述を含む問題は増加したが、長文論述は減少

論述型の問題を含む大問は増えているが、一題当たりの論述字数が300字を超える長い論述問題

は1996年度に比べるとむしろ少なくなっている。論述問題の約80%は1題当たり100字以下の問題であり、300字を超える長い論述問題は2%程度に過ぎない。以前は1題当たり400字の長い論述問題を課していた大学でも、大問全体の論述字数は変えずに、100~150字の問題を3題にするなど、テーマを限定し、字数を絞って明確な論述を求める問題が多くなっている [**表 3** (p.16)・**表 4** (p.17) 参照]。

### 4. 地理的スキルに関する問題

#### ■新旧地形図の読図問題が増加

地形図の読図は以前から出題の多い分野ではあったが、等高線や地図記号から小地形、土地利用、集落などを判定させる従来型の問題だけでなく、2006年度は写真やCGによる鳥瞰図と組み合わせ、撮影位置を問うものや、作製時期の異なる複数の地形図を並べてその間の変化を問うもの [**例題 4**] など地図から大まかな地域の特徴を判読させる問題が増えている。

#### ■新しい傾向の描図問題

地理的スキルに関する問題としては、地形図から地形断面図を描かせる問題は以前から多くみられたが、2006年度では、地図、模式図、グラフなどを描かせる問題が目立った [**表 5** (p.17) 参照]。地形図を使った問題でも断面図だけでなく、鳥瞰図を描かせるものや尾根線を記入させるもの、ある地点に降った雨水が海に流れ込むまでのルートを記入させるものなどさまざまな工夫がなされている。

また単に図を描かせるだけでなく、描いた図をもとに考えさせる論述問題を伴うもの [**例題 5**・**例題 6**] もみられ、地理的スキルと地理的思考力を試す問題として、今後とくに国公立大二次試験ではこのような形式は増加するのではないかと思われる。

#### ■景観写真を使った問題が増加

景観や建造物の写真の判読問題は、センター試験では頻出形式だが、2006年度は個別入試問題でも多くみられるようになった。とくに地形図を使った問題で写真の撮影位置を問うものが多かった。

表2 国公立大二次・私立大の入試問題のテーマ・形式の変化

		1996年度		1999年度		2002年度		2005年度		2006年度	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
解答形式	記号型	196	46.4	239	45.0	252	42.2	240	39.7	140	32.0
	記述型	38	9.0	37	7.0	49	8.2	42	7.0	42	9.6
	論述型	20	4.7	23	4.3	19	3.2	15	2.5	14	3.2
	記号型+記述型	106	25.1	120	22.6	179	30.0	207	34.3	146	33.4
	記号型+論述型	3	0.7	13	2.4	6	1.0	16	2.6	9	2.1
	記述型+論述型	32	7.6	44	8.3	44	7.4	33	5.5	21	4.8
	記号型+記述型+論述型	27	6.4	55	10.4	48	8.0	51	8.4	65	14.9
	(論述型を含むものの合計)	82	19.4	135	25.4	117	19.6	115	19.0	109	24.9
	(描図を含むもの)	5	1.2	11	2.1	6	1.0	16	2.6	15	3.4
合計	422	100.0	531	100.0	597	100.0	604	100.0	437	100.0	
系統的項目	図法・地形図	33	7.8	38	7.2	54	9.0	76	12.6	45	10.3
	自然環境	65	15.4	97	18.3	83	13.9	81	13.4	78	17.8
	人口と都市、村落	38	9.0	61	11.5	55	9.2	51	8.4	57	13.0
	第1次産業	51	12.1	45	8.5	64	10.7	52	8.6	37	8.5
	第2次産業	32	7.6	36	6.8	46	7.7	40	6.6	28	6.4
	国土の開発と保全	15	3.6	10	1.9	10	1.7	7	1.2	2	0.5
	第3次産業	34	8.1	26	4.9	31	5.2	29	4.8	24	5.5
	国家と国家群、国際関係	24	5.7	42	7.9	31	5.2	40	6.6	27	6.2
	その他(地誌・地理用語・その他)	130	30.8	176	33.1	223	37.4	228	37.7	139	31.8
	合計	422	100.0	531	100.0	597	100.0	604	100.0	437	100.0
出題地域	日本	81	19.2	87	16.4	117	19.6	114	18.9	63	14.4
	アジア	41	9.7	52	9.8	61	10.2	68	11.3	53	12.1
	ヨーロッパ	31	7.3	43	8.1	41	6.9	51	8.4	40	9.2
	アフリカ	11	2.6	10	1.9	15	2.5	17	2.8	12	2.7
	アメリカ	41	9.7	45	8.5	42	7.0	55	9.1	27	6.2
	オセアニア	8	1.9	11	2.1	10	1.7	21	3.5	8	1.8
	旧ソ連・東欧	2	0.5	8	1.5	8	1.3	7	1.2	9	2.1
	世界全域	167	39.6	170	32.0	233	39.0	170	28.1	131	30.0
	その他(系統的項目の理論と用語)	40	9.5	105	19.8	70	11.7	101	16.7	94	21.5
	合計	422	100.0	531	100.0	597	100.0	604	100.0	437	100.0
素材形式	リード文・引用文	278	65.9	275	51.8	312	52.3	389	64.4	275	62.9
	地図	103	24.4	131	24.7	171	28.6	206	34.1	141	32.3
	グラフ・統計	97	23.0	134	25.2	141	23.6	197	32.6	137	31.4
	写真(スケッチ)	6	1.4	9	1.7	10	1.7	18	3.0	14	3.2
	該当なし	59	14.0	110	20.7	76	12.7	38	6.3	34	7.8
合計	543		659		710		848		601		
論述字数	101字以下	135	74.6	273	88.3	193	81.8	193	81.4	162	81.8
	101~300字	35	19.3	31	10.0	39	16.5	38	16.0	32	16.2
	300字以上	11	6.1	5	1.6	4	1.7	6	2.5	4	2.0
	合計	181	100.0	309	100.0	236	100.0	237	100.0	198	100.0
新課程的項目	生活文化							15	2.5	16	3.7
	地球的課題	環境・エネルギー問題						58	9.6	22	5.0
		人口・食料問題						32	5.3	16	3.7
		居住・都市問題						8	1.3	14	3.2
		民族・領土問題						23	3.8	10	2.3
	合計						121	20.0	62	14.2	
	近隣諸国	中国						18	3.0	18	4.1
		ロシア						5	0.8	7	1.6
		韓国						2	0.3	2	0.5
		複数の国						0	0.0	5	1.1
合計						25	4.1	32	7.3		

※全国の主要45大学(国公立16大学、私立29大学)を対象に、大問ごとに分類した。

「素材形式」は重複してカウントしている。「新課程的項目」は「系統的項目」を新課程の項目に合わせて読みかえたもの。河合塾「2006年度新課程入試研究会分析資料」による。

表3 国立大二次の論述問題の分量とテーマ (2006年度)

	論述 問題数	総字数	1題当たり 平均	テーマ
北海道大	10	700字 前後	70字前後	■地形図読図－火山地形(月山と昭和新山)の比較。■立体図の地形(複式火山)の成因。■地形図読図－新興住宅地の立地。■地形図読図－カルスト地形の成因。■ECSCの設立理由。■扇状地における集落立地の特徴。■等高線耕作の目的。■囲郭村落と環濠集落に共通する機能。■中国の一人っ子政策による社会的変化。■中国と日本の人口ピラミッドの比較。
筑波大 (自然)	4	800字	200字 (50～300)	■新旧地形図の比較(土地利用変化)。■大気循環図の判読(エルニーニョ)。■エルニーニョ発生時の異常気象災害の特徴。■合衆国の3つの農業地域の農業特性とその自然・社会条件。
筑波大 (自然以外)	5	1600字	320字 (200～400)	■写真判読(地滑り)。■新旧地形図の比較(土地利用変化)。■大気循環図の判読(エルニーニョ)とエルニーニョ発生時の異常気象災害の特徴。■日本、中国、インドの人口ピラミッドの判定と各国の人口構成の特徴とその理由。■EU統合の進展と仮説。
埼玉大	8	400字 前後	50字前後	■気候表の判定(気温、緯度、標高)。■都心にみられる建築物の特徴とその理由。■ニューヨークのジェントリフィケーションの説明。■ロンドンの田園都市構想の説明。■大都市における国際ハブ空港の役割。■「淡水」の意味。■オランダで風車が利用された気候条件。■オランダの農牧業の特徴。
東京大	13	840字	65字 (30～90)	■雨温図の判定理由(キト)。■ペルー東部のアンデス山系東斜面における土地利用の特徴。■エクアドル、ペルーと比較したブラジルの輸出構成の特徴。■ブラジルの輸出構成の特徴を生みだした近年の産業構造の変化。■グラフの判読(1960年以降の日本の植林面積の変化)。■グラフの判読(1980年代以降の人工林の伐採面積と人工林の林齢の動向)。■人工林の林齢別面積の実態の理由。■パルプ用の木材供給形態が丸太からチップに変化した理由。■日本でパソコンの生産が減少している理由。■韓国とマレーシアが所得水準の割にパソコン普及率が高い共通する理由。■東北3県で1980～2000年に東京圏で就職する高卒生が減少し県内就職者が増加している理由。■九州3県で1980年代に東京圏に就職する高卒生が増加した理由。■東北では宮城県で、九州では福岡県で就職する高卒生が増加している理由。
東京学芸大	7	700字 前後	100字前後 (30～250)	■エルニーニョ現象によるダーウィン、タヒチの気圧変化。■エルニーニョ現象に対応する太平洋熱帯域の海面水温変化。■インドネシアにおける木材に関わる産業の変化。■熱帯林の伐採地で植林が難しく土地が荒廃する理由。■1990年代以降中国に日系企業や工場の進出が活発になった要因と日本国内の産業構造や地域社会に与えた影響。■モノカルチャー経済の問題点。■アフリカにおける人口問題の特徴。
一橋大	9	1125字	125字 (75～200)	■日本の原油輸入の湾岸諸国への依存度が再び高まった理由。■エルサレムの地位が重視される宗教的理由。■1990年、1991年にイスラエルへの移民が急増した理由。■イスラエルで現在の自然増加率が維持された場合のユダヤ系とアラブ系の人口比率の変化予想と、それを修正する社会的要因。■合衆国とインドの米と小麦の生産量と輸出量の変化の違い。■表中から選んだ2か国の米の輸入が多い理由と、今後20年ほどの間の米の輸入量の変化予測。■タイ、マレーシアからオーストラリアへの輸出が増加している製造業とその要因。■オーストラリアの貿易品目の構造と産業構造、産業別就業者の割合。
新潟大	3	500～ 650字	167～217 字	■日本で石炭の国内生産量が減少した理由。■石油の可採年数がのびる傾向にある理由。■EUの経済社会問題として農業、労働力移動、所得の各問題の説明。■中国で農村間の貧富の格差が生じ、拡大している原因。
福井大	9	700字 前後	80字前後 (25～160)	■地形図(波照間島)読図－貯水池のある理由、製糖工場の判読、カルスト地形の判読、裾堰の判読。■温室効果ガスが地球環境に与える影響。■風力発電の利点と問題点。■1960～2000年に人口が減少した県と5%以上増加した県の地理的特徴。■県庁所在都市への人口集中度が20%程度以下の県の性格や条件。
名古屋大	14	1500字 前後	100字前後	■地形図読図－洪水時に氾濫を受けやすい集落、地形の改変と地震災害。■ロンドンのインナーシティ問題とイギリスの都市計画。■ロンドンの港湾地区衰退の要因となった運輸事情の変化。■修復・保全型の再開発と一掃型の再開発。■1980年代以降海外に生産拠点を求める日本企業が多くなった背景要因。■国境を越えて活動する多国籍企業が進出先に与える影響。■電話料金の低廉化が地域社会や経済にもたらす影響。■国際間の情報通信を可能にしている二種類の即時通信システム。■世界における情報通信の普及の特徴。■アフリカで1970年代以降の人口増加が著しい要因とそれに伴う問題。■緑の革命が普及した国・地域とその社会的影響。■東欧・旧ソ連で1990年頃から穀物生産が停滞した理由。■1960年以降の日本の米・トウモロコシの生産量、輸入量の推移の特徴とその要因。
京都大	13	480字	37字	■新旧地形図比較－農地の土地利用の変化、市街地の形態の変化。■ラトソルとチャルムの形成過程と性質。■地中海性気候の降水量の季節的变化とその要因。■クルド人が抱える民族問題。■日本の穀物自給率が先進国中最低の部類に属する理由。■日本人の海外訪問先が中国、韓国、タイなどアジアが多い理由。■華僑・華人の中国国内の送出国、移住先、移住の理由、移住先での活躍分野。■ロンドンのドックランズの再開発。■ビッツバーグで19世紀中頃に発達した工業とその立地条件。■ビッツバーグで20世紀半ば以降実施された「ルネサンス計画」による居住環境の改善。
大阪大	5	750字	150字	■発展途上国における人口爆発と首位都市への人口集中の原因。■日本で人口転換後も大都市圏への人口移動が続いたことで発生した大都市圏とそれ以外の地域の人口構成の違い。■「団塊の世代」の特色と将来の高齢化による影響。■地球温暖化の原因・結果・影響。■産業公害による居住環境の改善。
和歌山大	10	800字 前後	80字前後	■新旧地形図比較－島田と金谷の市街化の進行、地形と土地利用の関係と変化、中心集落の地形的立地の違い。■CBDに一般的にみられる人口的特徴。■インナーシティの衰退が生じた理由。■反都市化現象の説明。■ジェントリフィケーションの説明。■海上輸送が全米に企業の農業地域形成に果たしている役割。■インターネットにより地域格差が縮小する可能性とそれを実現させるための課題。
長崎大	3	300字 前後	100字 前後	■中南米諸国がモノカルチャー経済からの脱却を図る理由。■地形図読図－火山山麓の土地利用と水が得られにくい理由。■大陸別人口、合計特殊出生率の統計からみた世界の人口問題。

\*字数が指定されていない場合は、解答欄の大きさからおおよその字数を推測。



表4 公立大二次の論述問題の分量とテーマ (2006年度)

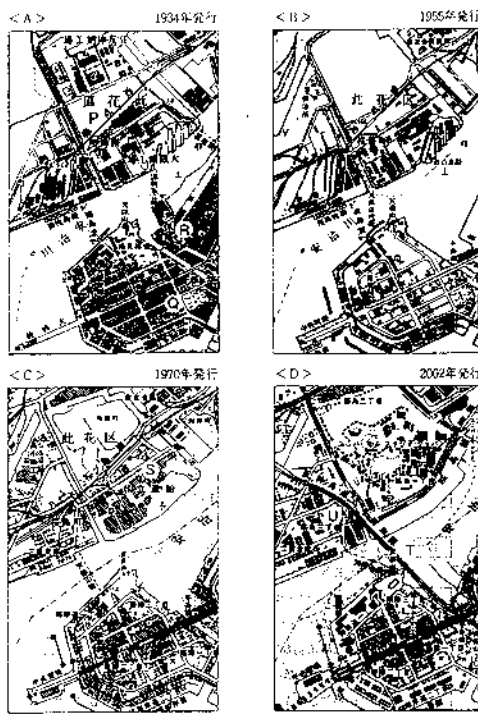
高崎経済大	9	400字前後	45字前後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■排他的経済水域に認められる主権の権利の具体的説明。■「人種」と「民族」の違いの説明。</li> <li>■1991年まで南アフリカ共和国で行われてきた人種差別制度の内容。■南アフリカ共和国の人種差別関連法を廃止に追い込んだ抵抗運動への世界各国の支援策。■「多文化主義」の説明。</li> <li>■パレスチナ問題でのユダヤ人とアラブ人の対立の背後にある他国の関与。■河川が水運に適する条件。■「ハブ空港」の説明。■ドイツが外国人労働者を受け入れなければならなかった理由。</li> </ul>
首都大学東京(文系)	7	1200字前後	170字前後(350字1題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■土地利用図に示された地域(合衆国カンザス州)の農業の特徴。■合衆国カンザス州付近での環境問題とCRP(農地保留事業)契約地の関係。■中国で将来急速な高齢化が進行すると予測される理由。■日本などで人口の高齢化を促進させた原因。■日本の65歳以上人口率の分布の特徴とその原因。■稚内、パリと比較したウランパートルの雨温図の特徴とその地理的条件。</li> <li>■シベリア高気圧が発達する原因と日本への影響。</li> </ul>
首都大学東京(理系)	10	950字前後	95字前後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■気候条件と関連する熱帯の土壌の特徴。■アマゾン川とコンゴ川の河川流量の年変化。■コンゴ川の流量変化の要因。■日本で1999年以降木材より合板の輸入が多くなる理由。■熱帯雨林の開発が生物種に与える悪影響。■日本の製造業立地の変化の特徴およびその背景。■日本が熱帯雨林の保全のために貢献している事例二つ。■大都市圏と非大都市圏の製造業従業者数と製造品出荷額の構成比の傾向とその原因。■日本の製造業の海外移転先が中国沿岸部に多くみられる背景。■日本の半導体工場の立地の特徴。■地形図判読－河川争奪。</li> </ul>

表5 国立大二次・私立大の描図問題の内容 (2006年度)

大学	描図の内容
北海道大	解答欄の地図中にフランクフルトとブリュッセルの位置を記入する。
埼玉大	6つの島国の首都の経度・緯度をもとに、世界地図を描く。 オランダのポルダーの土地利用景観の特徴を、斜め上空から見た模式図として描く〔例題参照〕。
東京学芸大	与えられた観測値をもとに、太平洋東部赤道付近の海水温とタヒチの気圧の関係を示すグラフ(散布図)を描く。(さらに描いた図をもとにエルニーニョ現象発生時の気圧と大気下層の風の状況を説明する。)
名古屋大	地形図(洪積台地と解析谷)をもとに鳥瞰図を描く。
福井大	人口の変化率と都道府県庁所在地都市への人口集中度を示したグラフ(散布図)をもとに、解答欄の日本地図に人口減少がみられたすべての都道府県を塗りつぶして示す。
慶応大(経済)	年間降水量から年間蒸発量を差し引いた値の緯度別分布形を図示する。(さらに描いた図をもとに、気候の特性などを説明する。)
明治大(政経)	統計表をもとに、5か国の産業別人口構成を三角グラフで示す。
学習院大(法)	3つのキーワードを満たす国の位置を国境線の書き込まれた白地図中に記入する。
学習院大(経済)	朝鮮半島にみられるオンドルの構造を図示する。
奈良大(文・社会学)	解答欄の地形図の拡大図に尾根線を書き入れる。
酪農学園大(酪農学部)	解答欄の地形図に降水が海に到達するルートを書き入れる。 メルカトル図法の地図に東京からロサンゼルスまでの等角航路と大圏航路を書き入れる。

40 次頁の図2の地形図<A>～<D>(2万5千分1、原寸大)は、大阪湾に面した一地域を年代順に並べたものである。これらの地形図を見て地球の変化を読み取り、またその背景にある日本の工業の発展過程も考えよう。つぎの文 15 ～ 20 のうち正しいと判断されるものは①を、誤っていると判断されるものは②を選べ。

- 16 : <A>の鉄道Pは、河口部の地と幹線鉄道の主要駅とを結ぶ貨物輸送線として開設された。
- 17 : <A>の地区Qでは、一度形成された市街地が、第二次世界大戦の影響で<B>では消滅した。
- 18 : <A>の安治川左岸の地区Rは、地盤沈下が主な原因で水没したため、<B>では川の一部になった。
- 19 : <C>の工場用地Sは、重工業が立地移転したために、<D>ではレクリエーション施設になった。
- 20 : <D>の高速道路Tが開通したことによって、地区Uでは中高層の集合住宅が急増した。



【例題4 追手門学院大(2/7実施) [1]】

※地形図から地形断面図を描く問題は除いた。

問5 熱帯の海面水温は、世界各地の気候に影響を与えると考えられている。次の表1は、下の図4に示した海域Pの海面水温、およびダーウィンとタヒチの気圧について、1985～2000年の1月における値を示している。表1の値により、海域Pの海面水温とダーウィンの気圧との関係を示したものが次ページの図5である。これにからって、海域Pの海面水温とタヒチの気圧との関係を示す図を解答用紙中の所定欄に完成させよ。

表 1

年	海域Pの海面水温(°C)	気圧(hPa)	
		ダーウィン	タヒチ
1986	24.8	1004.7	1010.8
1987	26.3	1007.1	1010.2
1988	26.0	1007.8	1012.0
1989	24.2	1005.4	1012.6
1990	25.1	1006.9	1011.1
1991	25.6	1006.3	1011.8
1992	26.8	1010.1	1009.2
1993	25.5	1006.8	1009.5
1994	25.7	1006.7	1010.8
1995	26.2	1007.0	1010.6
1996	25.0	1005.7	1011.9
1997	24.7	1007.3	1012.6
1998	28.4	1007.8	1007.2
1999	24.2	1004.9	1012.6
2000	25.8	1006.7	1012.3

気象庁などの資料による。

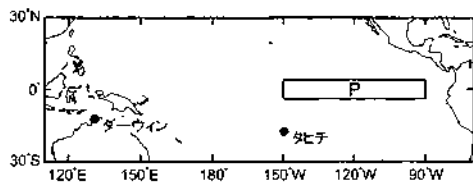


図 4

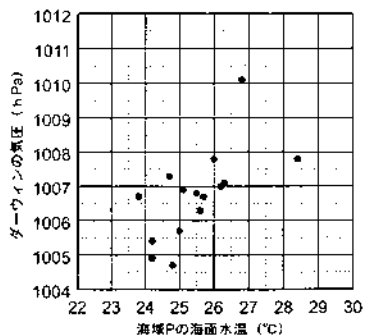


図 5

問6 エルニーニョ現象が発生すると、ダーウィン(太平洋熱帯域西部)およびタヒチ(太平洋熱帯域中東部)の気圧は、通常時と比べてどのように変化すると考えられるか。図5および問5の解答をもとにして1行で説明せよ。

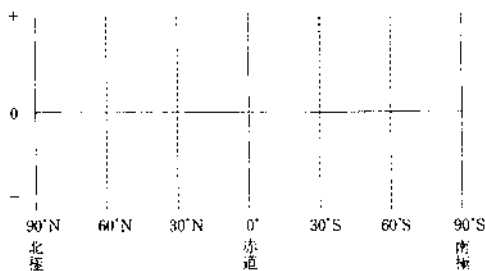
問7 エルニーニョ現象は、大気と海洋の相互作用として発生する自然現象の海洋における巻面と考えられている。エルニーニョ現象に対応する太平洋熱帯域の海面水温変化は、この領域における大気下層の風とどのように関わっているか。通常時の状態と多少異が明確になるように説明せよ。なお、説明の補助として図を用いてもよい。

[例題5 東京学芸大 I]

問37 下線(4)に関連して、大気の大循環の仕組みによって地表の様々な地点における降水量や蒸発量には、大きな差異が生じる。特に、年間降水量と年間蒸発量の緯度別の分布には著しい特徴がある。所定の解答欄に描かれている枠組に、年間降水量から年間蒸発量を差し引いた値の緯度別分布形を指示しなさい。

次に、この図において負(マイナス)の値を示す緯度帯にみられる気圧帯とはなにか、また、このような緯度帯にみられる気候の特性とはなにか、さらに

何故、年間降水量が年間蒸発量を下回るのか、これらの諸点について大気の大循環の仕組みの観点から、150字以内で所定の解答欄に説明をしなさい。



[例題6 慶應大(経済) IV]

問1 次の空中写真は、数回可能な海相地帯を撮影したものである。この写真をよく見て、下の問1～問6に答えよ。



問1 上の空中写真の周囲の海岸地帯の種類が、あるいはその海岸において観察される地形の姿勢として誤っているものを、次の記号(1)の中から一つ選べ(解答欄[23]に2つマークせよ)。

- ① 海浜帯      ② 砂丘地帯      ③ 砂州      ④ 遊歩帯
- ⑤ ラゴーン海岸      ⑥ 陸架帯

問2 次の写真(2)は、上の海岸地帯を撮影したものである。この写真がわかることとして適切なものを、次の記号(1)の中から一つ選べ(解答欄[24]に2つマークせよ)。



写真1

- ① 砂い海濱と浅い海濱が交互に連続している。
- ② 海浜帯は傾斜している。
- ③ 人工的な防風が散見している。
- ④ 地層の厚さが土地の長さと同様になっている。
- ⑤ 浜による陸表作用がはたしている。

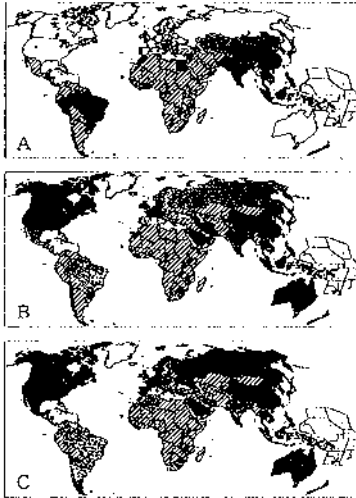
問3 上の写真(1)の撮影位置として最も適切なものを、上の空中写真中の記号(1)の中から1つ選べ(解答欄[25]に1つマークせよ)。

[25]

[例題7 東洋大(2/17実施) IV]

3. 世界の分布図に関する以下の設問に答えよ。

問 1. 次の分布図A, B, Cは、①輸出総額(1999年)、②日本への輸出額(1999年)、③日本からのODA供与額(1997年)のいずれかのパターンを示したものである。輸出総額の日本は意図的に白抜きにしてある。各図がどれに当たるかを考察した下の文の空欄に入るべき国・地域名を、問2の下の括弧から選んで、「ア=〇〇」のように答えよ。



Aが③であることは、(ア)や西欧などの(イ)諸国が日本のODA供与先ではないことからわかる。BとCの判断は、(ウ)と(エ)地域の諸国の色がより濃いほうのBが②である。

問 2. 第1次、2次、3次産業人口率(1996年)の分布図を作ったが、見出しを付け忘れてしまった。次の図がそのどれかを考察した下の文の空欄に入るべき最も適切な国名を、下掲の括弧から選んで「オ=〇〇」のように答えよ。なお、白地の国は資料のない国である。



この図が第1次産業人口率ではないことは、アジアや(オ)の(カ)地域に低率の国が多いことからすぐわかる。第2・3次産業人口率の判断は微妙であるが、同じ先進地域でもサービス化がより進んだ(キ)諸国が(ク)諸国よりも高率である点からみて、この図は第3次産業人口率であると判断される。(ケ)地方の国々が高率なのは意外といえるが、これはこの諸国の農業基盤の弱さと工業の未発達を反映していると考えられる。

【語群：問1・2用】

アンデス、アジア、アフリカ、アメリカ、オセアニア、北アフリカ、北・西欧、中国、東欧、東南アジア、先進、途上

【例題 8 東北学院大(文・教養 2/4実施) 3】

また写真ではなく、コンピュータ・グラフィックによる鳥瞰図を使ったものもみられた。また空中写真と景観写真を組み合わせ撮影位置や写真に示された地形の特徴を判定させるもの【例題 7】など、写真が単なる添え物ではなく、写真から地域を読み解くことが求められている。帝国書院の教科書『新詳地理B』では、「技能をみがく」、『楽しく学ぶ世界地理B』では「SKILL」というコラムで、写真から地形、気候、産業、労働生産性、生活などを読み取るコツが詳しく解説されており、こうした問題への対策として役に立つ。

■統計地図は表現方法にも注意が必要

統計地図を扱った問題は以前からみられたが、単純に指標を判定させるのではなく、階級区分図の読み取りのポイントを述べた文章の空欄を補充させるもの【例題 8】や、図形表現図で正しい凡例を選ばせるものなど、統計地図の表現方法そのものに関する問題が目立つようになった。

5. 論述問題のテーマ

論述問題で「〇〇について述べよ」と要求される内容には、次のような事項をあげることができる。

- ①要因・成因を答える
- ②地域や事項を比較(共通点・相違点)する
- ③時代の変化を読む
- ④特長(長所)や問題点(短所)を指摘する
- ⑤資料を判読する

表3・表4に示した2006年の国公立大二次試験における論述問題のテーマをみると、似たような内容が複数の大学で出題されていることがわかる。エルニーニョ現象が筑波大、東京学芸大で、先進国の大都市の再開発に関する問題が埼玉大、名古屋大、京都大、和歌山大で出題されているが、これらのテーマはいずれも『新詳地理B』に詳しく解説されており、『楽しく学ぶ世界地理B』ではとくにジェントリフィケーションの説明が詳しい。難関大学の論述の問題でも、その多くは教科書にきちんと説明されているものが多く、入試対策もまず基本は教科書の学習である。